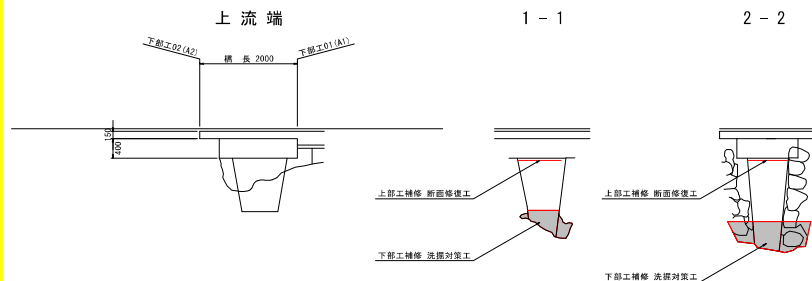


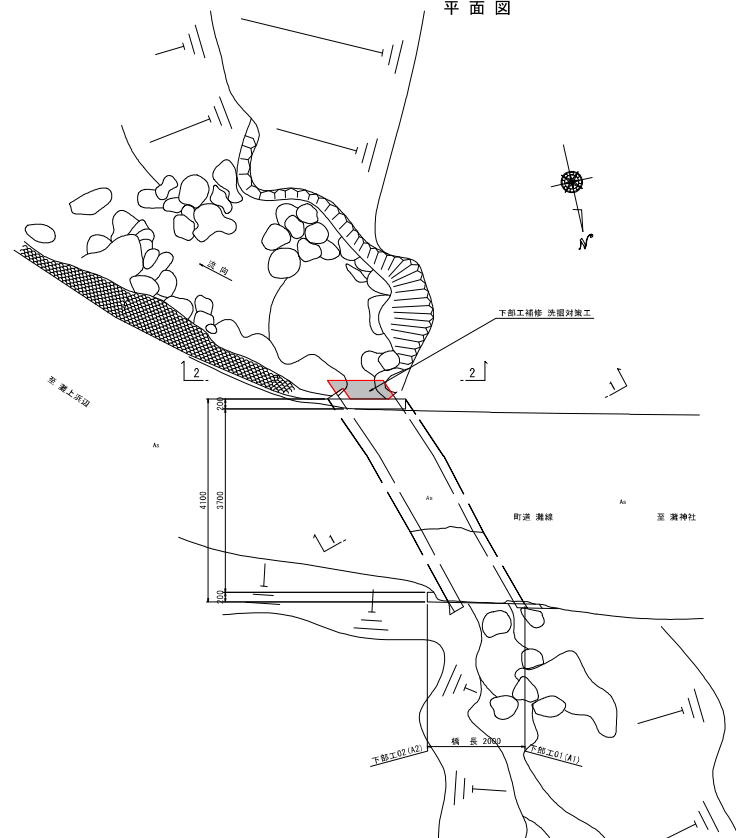
S=1:50

1 - 1

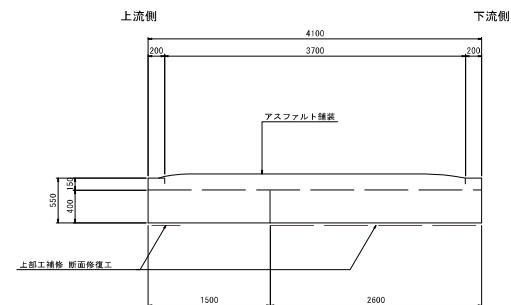
2 - 2



平面图

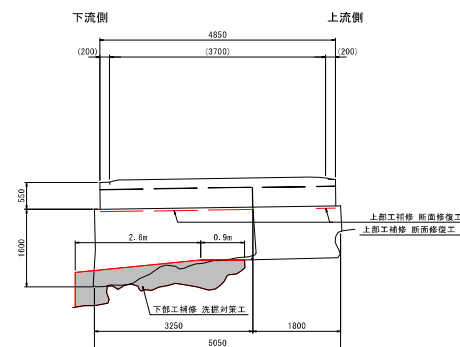


S=1:30

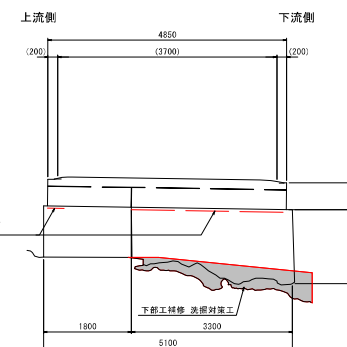


正面図

A1 橋台



A2 橋 台



寸法表示の内、()表示は道路直角方向の寸法を示す。

元諸橋現

路 線 名	町通 通線
授 名	そのの谷橋
架 設 年 度	1962年（昭和37年） ^{（※）}
白 鶴 橋 重 量	二等橋（凡～14t） ^{（※）}
上 部 構 造	鉄筋コンクリート準橋床桁橋
橋 長	2,00m
有 効 橋 長	3,70m（平均長）
全 長	4,10m（平均長）
鋼 材	アスファルト舗装
橋 体 形 式	単力式橋台
基 礎 形 式	直接基礎
選 用 基 準	昭和31年（1956）コンクリート橋標準示方書 ^{（※）}

※1:道路台帳および標定点検測書より抜粋

補修工法一覽

補修工法一覧			
部位・部材	劣化状況	補修工法	備 考
上部工	うき・鉄筋露出	断面修復工	左官工法
下部工	洗掘	洗掘対策工	コンクリート充填

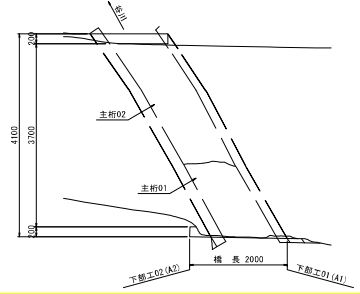
そのの各種			
工事名	令和7年度 通称対策事業 そのの各種修繕工事		
路線名等	町道黒瀬線		
工事箇所	牟婁町		
図面名	地盤補修計画一般図		
縮尺	図 示	図面番号	1 / 4
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟婁町 建設課		

補修詳細図(1/2) S=1:15
上部工補修 断面修復工

主桁展開図

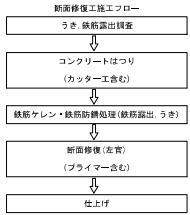
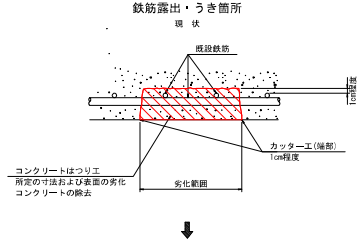


位置図 S=1:50

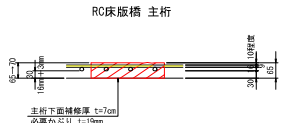


断面修復工(左官工法)詳細図 S=1:5

既設コンクリート断面欠損部



補修厚根拠図 S=1:10



注記
必要かぶりは、図面下方による算出式を用いた中の最大値を示す。
設計図面に表示している鉄筋径と異なる場合は、再計算を実施すること。
該設計の鉄筋径はφ16となっているが、断面減少等を考慮して、φ18で計算した。
既設かぶりが小さく必要かぶりが確保できない場合は、補修モルタル厚を増厚し、必要かぶりを確保する。

断面修復工(左官工法)断面積集計表

部材番号	幅 (m)	幅 (m)	数量	単位	適用
左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 : 有					
主桁01 D1	0.150	0.100	0.015	m2	
主桁01 D2	0.100	0.100	0.010	m2	
主桁01 D3	0.100	0.100	0.010	m2	
主桁02 D4	0.950	1.225	1.164	m2	(1.50+0.95)/2+1.225
主桁02 D5	0.400	0.550	0.220	m2	
主桁02 D6	0.350	0.550	0.193	m2	
主桁02 D7	0.550	0.550	0.303	m2	(0.40+0.70)/2+0.55
主桁02 D8	1.050	0.550	0.578	m2	
小計			2.493	m2	
合計			2.493	m2	

断面修復工(左官工法)集計表

左官工法 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 : 有	V = 0.175 m³ (設計数量)
-----------------------	---------------------

- ※ 断面修復工
・削り、不保コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう範囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切目地を入れ、入念に施工する。
・はつり作業においては、振動が既設コンクリート・鉄筋に与える悪影響や、騒音が周辺環境に与える影響について十分留意し施工すること。
・工事による河川内へのコンクリート塊落下を防ぐため、シート等で十分な養生を行うこと。
・最小かぶり
「PAC系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)」を基に、以下に示す最小必要かぶりを確保すること。

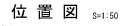
最小かぶり=Max $\left[\begin{array}{l} a: \text{最外縁鉄筋の呼び径} \\ b: \text{最大径の鉄筋の呼び径から最外縁鉄筋の呼び径を控除した値} \\ c: \text{気中の場合9mm or 水中又は土中の場合17mm} \end{array} \right] + 3\text{mm (施工差)}$

※ 断面修復材料
鋼材はRCポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案)」「工法別マニュアル編」平成17年土木学会)に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

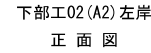
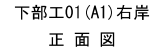
力学的性能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同等な強度特性を有すること
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm2以上)

そのの仕様	
工事名	令和7年度 道路事業 市道の修繕工事
路線名等	町道線
工事箇所	年頃町
図面名	補修詳細図(1/2)
図尺	図示 図面番号 2 / 4
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント
事業者名	年頃町 建設課

S=1:30



- ・測量未実施より標高を記載していないため、河床コンクリート端よりLEVEL区間を設け、河床勾配1/10程度で洗槽を確保すること。
- ・コンクリート打設時には、基面整正を実施し、地盤の浮き石やこぼれた土砂等を排除すること。撤去した浮き石、転石は落差部河床の洗掘防止として落差下部に配置すること



そのの各種			
工事業	令和7年度 道路対策事業 そのの各種修繕工事		
路線名等	町道東横		
工事箇所	年頃町		
図面名	補修詳細図(2/2)		
図尺	図 示	図面番号	3 / 4
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	年頃町 建設課		

S=1:50

Figure 1 is a schematic diagram of the structure of the bridge pier. The diagram shows a cross-section of a pier with a width of 2000 units. The pier is supported by a foundation. The top of the pier is labeled "下翼工0.5 (A2)" and "下翼工0.1 (A1)". The pier is labeled "橋長 2000". The pier is supported by a foundation labeled "A2 鋼筋" and "A1 鋼筋". The foundation is labeled "地盤 (編組)". The pier is supported by a foundation labeled "上流側桥臺".

A1 橋台

A2 橋 台

平面图

下流側

上流側

上流側

下流側

寸法表示の内、()表示は道路直角方向の寸法を示す。

路 線 名	町道 渡保	
設 名	そのの谷橋	
架 設 年 度	1962年（昭和37年） （資）	
自 然 地 理 産	二等松（凡〜147） （資）	
上 部 工 事	形 式	鉄筋（コンクリート）単純床版橋
	橋 長	2.00m
	有 効 幅 員	3.70m（平均長）
	全 橋	4.10m（平均長）
	鋼 装	アスファルト鋼装
下 部 工 事	橋 体 形 式	重力式橋台
	基 礎 形 式	直接基礎
通 用 基 準	昭和31年（1956）コンクリート橋示方書 （資）	

※1:道路台帳および橋梁点検調査より抜粋

その名称			
工事名	令和7年度 通称対策事業 その名称修繕工事		
路線名等	町道夏緑線		
工事箇所	牟岐町		
図面名	既設橋梁一般図		
縮尺	図 示	図面番号	4 / 4
会社名	株式会社 フジタ建設コンサルタント		
事業者名	牟岐町 建設課		